

| 改正点・旧ルール | 新ルール |
|--|--|
| <p>バスケットボール ★競技場 (p.109) ●記録席の名称 ・オフィシャルズテーブル</p> | <p>スコアラーズテーブル ※記録席の名称変更</p> |
| <p>★ゲームのあらまし (p.109) ●時限の名称 ・延長時限</p> | <p>延長ピリオド ※時限の名称変更</p> |
| <p>★ココをチェック (p.114) ●軸足(ピボットフット)とトラベリング ・ジャンプストップはどちらを軸足にしてもよい。ストライドストップ(片足ずつ止まる方法)は最初に着地した足を軸足にしなければならない。右図のように、後に着地した足を軸足にするとトラベリング。</p> | <p>※動きながら、片方の足がフロアに着いた状態でボールをコントロールした場合、フロアに着いている足は「0歩目」とし、その後2歩までステップを踏むことができるようになった。そのため、図の下に以下の文を追記した。</p> <p><u>ただし、パスからでもドリブルからでも、ボールをキャッチしたときに片方の足が床に着いていた場合はその足を「0歩目」と数え、続いて1歩目、2歩目と床に着地した1歩目が軸足(ピボットフット)となる。</u></p> |
| <p>ソフトボール ★ゲームのあらまし (p.237) ●ストライクゾーン ・打ちに行く姿勢で、上限は脇の下、下限は膝頭の上(ファストピッチの場合)。</p> | <p>自然に構えたときの、<u>上限はみぞおち、下限は膝の皿の底部の間</u>で、左右は本塁ベースに接すればストライク。</p> <p>※ストライクゾーンを決める際の姿勢が、「打ちに行く姿勢」から「自然に構えたとき」に変更された。さらに、ストライクゾーンの範囲が変更され、これまでよりもやや低くなった。 ※さらに、これまではストライクゾーンの空間を前の面からボールが入って後ろの面から出るまで全て通過しないとストライクではなかったが、ゾーンの空間のどこかを通過すればストライクとなることに変更された。</p> <div data-bbox="719 1279 1118 1592" data-label="Image"> <p>■ストライクゾーン ●ストライク ○ボール</p> <p>自然に構えたときの、<u>上限はみぞおち、下限は膝の皿の底部の間</u>で、左右は本塁ベースに接すればストライク。</p> </div> |
| <p>★投球 (p.248) ●投手板の踏み方 ・両足で投手板を踏む。</p> | <p>両足または軸足で投手板を踏む。 ※投球の際、軸足だけで投手板を踏んでもよいことになった。そのため、自由足と軸足の関係の図も、以下のように変更した。</p> <div data-bbox="703 1794 1150 2051" data-label="Image"> <p>●投球 両腰は1塁と3塁を結ぶ線と平行に。投手板の踏み方</p> <p>ボールは体の前で持つ。サインを見るときは両手を離す。</p> <p>両足または軸足で投手板を踏む。</p> <p>自由足 軸足 よい よい 違反 よい 〈右投げの場合〉</p> </div> |